

2021年2月4日

情報文化学会会員 各位

情報文化学会総務委員会

情報文化学会 2020 年度総会について

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、本年 2020 年度の情報文化学会全国大会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、オンラインでの実施とすることとし、無事開催を終えることが出来ました。

これにともない、会員の皆様の参加に困難が伴いますことから、例年は全国大会と合わせて開催してきました総会の開催を見合わせました。

情報文化学会の定款には、役員及び会員が出席要件を満たせないことにより、役員会及び総会が開催出来ない場合についての定めがありません。

ついては、定款第 27 条及び第 35 条において、役員会及び総会に出席できない場合に書面をもって委任することが出来る旨を定めていることに鑑み、第 40 回役員会を 2020 年 12 月に書面にて実施し、総会で提案致します議案の承認を得ました。

2020 年度総会についても書面をもって開催することといたします。

記

1 書面での総会の実施概要

- ・本書状の公開をもって、議案書等の配布とする。
- ・議案書等の配布後、2021 年 2 月 12 日まで意見募集期間とする。
- ・意見募集期間終了後、総務委員会が意見集約を行い。大きな修正案があれば再度書面での審議を提起する。
- ・大きな修正提案がなければ、議案は承認されたとみなす。

2 議案

第 1 号議案 2019 年度事業報告案および収支決算案に関する件

第 2 号議案 2020 年度事業計画案および収支予算案に関する件

第 3 号議案 役員追加任命に関する件

3 意見提出先

情報文化学会総務委員長 本田正美<taikai@jouhou-bunka.jp>

第 1 号議案 2019 年度事業報告案および収支決算案に関する件

事業報告案

[報告事項]

1. 2019 年度全国大会の開催

第 28 回全国大会を 2019 年 10 月 5 日(土)、東京大学にて開催。

2 委員会・支部・部会の活動

支部研究会の開催

- ・北海道支部研究会：2019 年 5 月 25 日（於：北海道大学）
- ・関東支部研究会： 2019 年 8 月 29 日（於：東京工科大学）
- ・中部支部研究会： 2019 年 12 月 14 日（於：名古屋大学）
- ・九州支部大会： 2020 年 2 月 11 日（於：鹿児島医療技術専門学校）

3 学会誌の発行

情報文化学会誌 26 巻 1 号(2019 年 10 月)、2 号(2020 年 3 月)を発行。

4 ニュースレターの発行

ニュースレター No.64(2019 年 5 月)、No.65(2019 年 8 月)を発行。

5 学会 Web サイトの運営

各種情報につき、適宜 Web サイト上で情報公開。

5 会員数の状況(2019 年 9 月時点)

退会会員数=4 名 新入会員=12 名(学生会員 5 名、正会員 7 名)

正会員数=258 名(うち、休会・在外勤務で停止 6 名) 参事会員=113 名

総会員数=371 名

収支決算案

[報告事項]

1 2019 年度収支決算について

別紙参照

以上

第 2 号議案 2020 年度事業計画案および収支予算案に関する件

事業計画案

[審議事項]

1. 2020 年度全国大会の開催

第 29 回全国大会を 2020 年 10 月 17 日(土)、オンラインにて開催。

2 委員会・支部・部会の活動

支部研究会の開催

- ・北海道支部： 未定
- ・東北支部： 未定
- ・関東支部： 2021 年に開催予定
- ・中部支部研究会： 2020 年 12 月 12 日 (於：オンライン)
- ・九州支部大会： 2021 年 2 月 11 日 (予定)

部会の開催

未定

3 学会誌の発行

情報文化学会誌 27 巻 1 号(2020 年 10 月)、2 号(2021 年 2 月予定)を発行。

4 ニュースレターの発行

ニュースレター No.66(2020 年 6 月発行済)、No.67(2020 年 9 月発行済)を発行。
(学会 Web サイトに掲載済)

5 学会賞の贈賞

資料 1 参照

6 会員数について(2020 年 10 月時点)

退会会員数=7 名(2 名逝去、1 名異動等による代理届出)

新入会員=25 名(学生会員 16 名、正会員 9 名) 再開会員=1 名

正会員数=277 名(うち、休会・在外勤務で停止 6 名) 参事会員=113 名

総会員数=390 名

収支予算案

[審議事項]

1 2020 年度収支決算について

別紙参照

以上

第 3 号議案 役員選任に関する件

2019年10月5日実施の第39回役員会において、定款第19条に基づき、会員の推薦により、2019年10月6日から2021年全国大会当日までを任期とする理事及び評議員の選任案が提案された。同選任案は、役員会において承認された上で、2019年度全国大会における総会において承認された。

このことにつき、武田和大氏(鹿児島高専)が九州支部副支部長業務について実際にその任にあるゆえ、同氏を評議員(担当業務：九州支部副支部長)として追加すべきとの提案があった。

定款第19条に基づき、武田和大氏を評議員(担当業務：九州支部副支部長)に選任することを提案する。

以上

(資料 1)

情報文化学会 2020 年度顕彰

■大賞：

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 ・人工知能研究センター首席研究員 兼 確率モデリング研究チーム長 本村陽一氏

「データ知識融合型人工知能 (AI)、社会現象の確率的モデル化と最適制御に関する研究」

<推薦文>

本村陽一首席研究員を会長とした「人工知能 (AI) 技術コンソーシアム」では、国が標榜する Society5.0 における社会のサイバーフィジカル化において、AI 活用のユースケースやビッグ&ディープデータの集積、それらのコンセプトムービーの作成などを推進し、上記の研究のみならず、AI 関連の周辺領域の研究を多岐にわたって行っている。また、その過程において、次世代の産業・生活インフラを支える AI 技術の出口戦略を実証プロジェクトとして試行・検証・支援するワーキンググループの運営やリーダー人材の育成を行い、新たなプロジェクトを生み出すオープンイノベーションの「場」やコミュニティを地域や企業にも展開している。よって、情報文化学会などにも多大なる貢献をされていると考えられる。

■学会賞：

名古屋大学大学院 情報学研究科 教授 安田孝美氏

「協働の研究チームを編成し、多岐にわたる研究成果を創出した情報文化学会への貢献」

<推薦文>

安田孝美教授の研究は、上記に関連して、情報文化学会に発表された論文の多くは、学内研究者だけでなく、他大学、企業などの研究者の参加者を得て、多岐にわたる研究成果を創出している（「地域観光を支援するためのフォトラリーシステムの開発」「複合現実を用いた文化財建造物の活用に関する研究」など）。これらの研究成果は、その指導において、①適切な計画、②新技術の導入・開発、③研究指導・評価 が卓越していることによる。研究指導者としての高く評価するとともに、情報文化学会への貢献に対して学会賞を贈賞するものである。

■片方善治賞：

北海道大学 メディア・コミュニケーション研究院 教授 伊藤直哉氏

「時間推移によるリスク認知変化の実証的研究」

<推薦文>

伊藤直哉教授の研究は、「消費行動」「価値創造」「集合知」「リスク認知」など、広範囲にわたっている。その中で「東日本大震災における情報行動とリスク認知」（情報文化学会誌 第 21 巻 第 2 号）は、近時の災害多発に有用な文献として、再評価されている。一

方、氏はライフワークとして「情報文化的人間本性の探求」を公表しているが、前述の論文のサブタイトル「時間推移によるリスク認知の実証的研究」は、このライフワークの主軸を示すように思われてならない。実際、その後の研究内容は、「時間的推移」「リスク認知」「実証的研究」のそれぞれが研究の広がりにつながっている。賞のタイトルの所以はここにある。

■芸術大賞： 該当者なし

<各受賞者のコメント>

■大賞 本村陽一先生

名誉ある情報文化学会の大賞を授与いただきまして、誠にありがとうございます。実社会ビッグデータの活用が望まれる中、様々な困難があり技術だけでなく利用方法の開発や組織学習など引き続き課題に取り組んでいきたいと思っております。

■学会賞 安田孝美先生

大変光栄なお話をいただき、非常に嬉しく思っております。

謹んでお受けさせていただきます。

心より感謝申し上げます。

どうぞ、よろしく願い申し上げます。

■片方善治賞 伊藤直哉先生

ありがとうございます。かなりビックリの情報です。嬉しくもあり、喜んで受賞しますので、宜しく願い致します。